

CIAC2008

企業連携による Field Alliance

## あかりビジネスによる産業活性化調査

ビジネスプロデューサー養成講座 実践編

### 報告書



平成20年3月

財団法人 中部産業活性化センター

表紙の写真

「名古屋テレビ塔から見た夜景」 提供:名古屋テレビ塔株式会社

## はじめに

財団法人中部産業活性化センターでは、平成19年度事業として「あかりビジネスによる産業活性化調査」に取り組みました。本報告書は、平成18年度に行った「ビジネスプロデューサー養成講座」において出されたアイデアをもとに、様々な議論や実験を行ない、事業化の可能性を検討したものです。

これまでも当財団では、中部地域の産業の活性化を目指し、地域振興や産業振興のための様々な事業を展開して参りました。

そのような中で、第176回CIACフォーラムの講師としてお迎えしたシステム・インテグレーション(株)の多喜義彦社長が行なっている人材育成セミナーをきっかけにして、企業が連携し、実際にビジネスモデル創出がされていることを知り、地域振興や産業振興の「種」をまき、「芽」を出す方策のひとつとして、平成18年度に「ビジネスプロデューサー養成講座」を試行いたしました。

本調査で検討した内容は、その講座で議論された「街路灯(明かり)ビジネスによる街の活性化事業」を出発点とし、ものづくりが盛んな中部地域にある名古屋の「栄周辺」をステージに、世界で初めての「明かりのビジネスショー」である「AkarISM Walk & Wave(仮)」を開催することにより、明かり(光全般)に関する技術の発展と人材育成、明かりを通じた産業振興、明かりを通じたまちづくりに寄与する事業へと発展させたものです。

本企画は、まだ議論を始めたばかりであり、会員企業だけでなく、様々な方のご支援を頂きながら、これからも検討を深めていく必要があると考えております。

本取り組みが産業活性化の新しいモデルとなり、ひいては中部地域の活性化に繋がれば幸いです。

なお、この調査の実施にあたりましては、講師や講座受講生の皆様、関係者の皆様に、検討会メンバーとしてご参加、またオブザーバとしてご指導を賜りました。この場を借りて改めて、お礼申し上げます。

平成20年3月

財団法人中部産業活性化センター



# あかりビジネスによる産業活性化調査 報告書目次

第1章 あかりビジネスの可能性調査に至る経緯	1
1. ビジネスプロデューサー養成講座の試行	2
2. 「街路灯(明かり)ビジネスによる街の活性化事業」の概要	4
3. 検討の経過	8
4. 検討会による議論の概要	10
5. 無線通信制御システム「EGG」を使った実証実験の実施	14
6. イルミネーション先進事例視察	15
第2章 あかりビジネスによる産業活性化事業案	17
1. あかりビジネスによる産業活性化事業案	18
(1) 基本的な考え方	18
(2) 「AkarISM Walk & Wave」について	19
①観光客誘引のための3つの施策	19
②方向性の確認	20
③「AkarISM Walk & Wave」企画概要(案)	21
④基本コンセプト	22
⑤コンセプト展開案 - 取組み案 -	23
⑥実行母体組織構想について	26
⑦人・物・資金調達の考え方について	26
(3) 開催事業と開催時期(年度計画)	27
2. 実現に向けた課題等	30
<b>資料編</b>	
資料1 検討会メンバー	36
資料2 無線通信制御システム実証実験の実施報告	37
資料3 ど真ん中祭り救急医療チーム管理・救助システム報告書	46
資料4 イルミネーション先進事例視察	54



# 第1章 あかりビジネスの 可能性調査に至る経緯

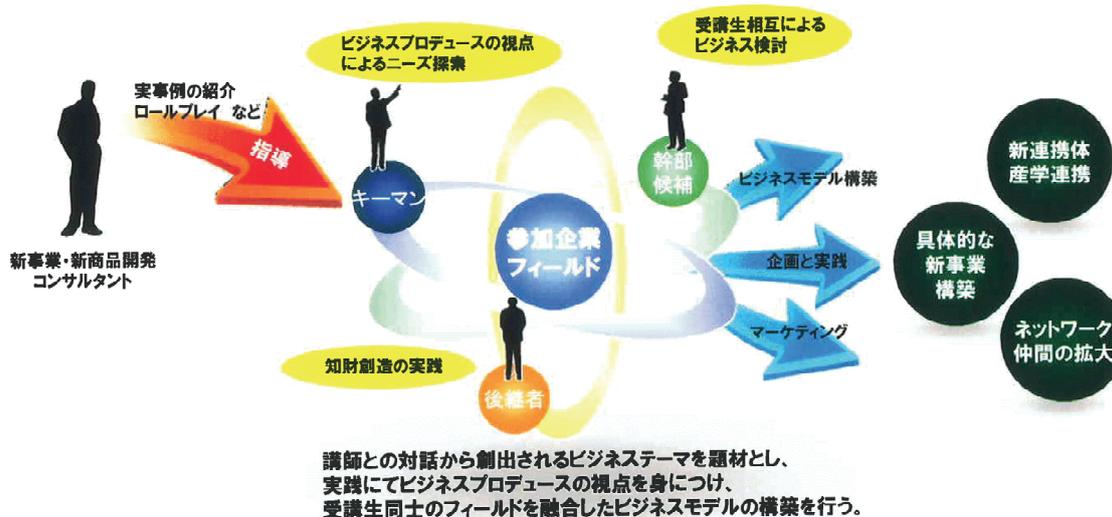
本章では、本年度調査の基になった講座および、  
本年度実施した様々な議論や実験等について報告します。

# 第1章 あかりビジネスの可能性調査に至る経緯

## 1. ビジネスプロデューサー養成講座の試行

これまでも多くの団体が、「異業種交流会」等を行ってきているが、異業種交流の必要性や成功事例に関する「講演会」や「名刺交換会」にとどまっていた傾向がある。

そのような中でCIACでは、平成18年度事業として「BP講座(短縮版)」を試行した。これは、企業の若手幹部候補者を対象に、合宿を含む研修を通算で4日間行い、その中で企業連携(Field Alliance)の有用性について学ぶとともに、参加者をグループ分け(仮想企業を構築)し、各社の実際の商材や事業をモチーフに、新たなビジネスモデルを構築する研修である。



第1期を募集したところ、賛助会員企業から12名の参加があり、4名×3グループでビジネスモデルの構築を試行した。

参加者によると、規定の研修時間以外にも各グループで自主的に集まり、活発な議論が行われたようである。



ビジネスモデルを発表している様子

第1期BP講座で議論されたテーマは次の通りである。

Aグループ：

旅行会社の顧客をターゲットとしたレディースリフレッシュ事業

Bグループ：

街路灯(明かり)ビジネスによる街の活性化事業

Cグループ：

柔軟に生産ラインを変更できる、倉庫でものづくり事業

→このうち、公益性、実現可能性などから、Bグループのアイデアを取り上げて、調査を行うことになった。

参加者からは、企業連携についての有用性、知財戦略の重要性について再確認したという感想に加えて、実際の自社商材をモチーフにした研修により、「企業に戻って実践するイメージが出来た」という評価を頂いている。また「この研修を通じて得た企業外の人脈が、貴重な財産になった」という高い評価も頂いた。

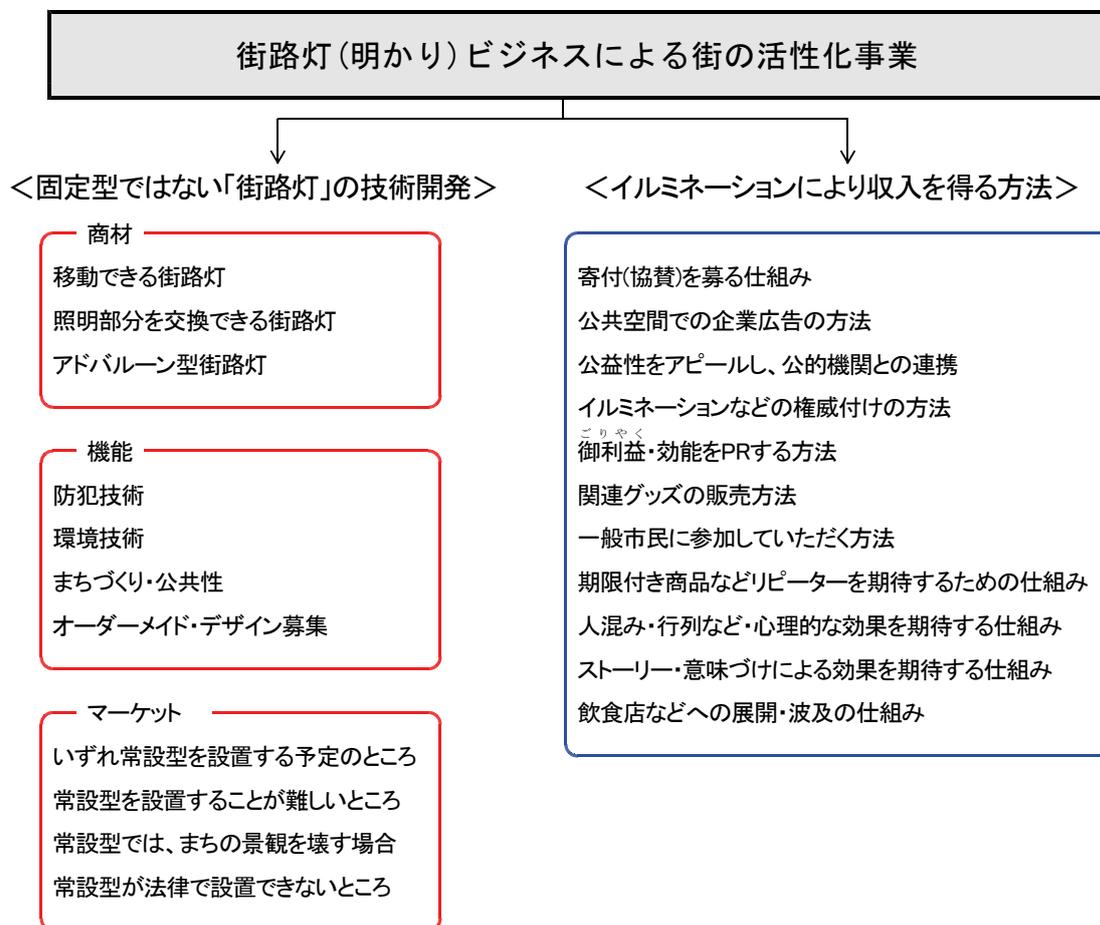


第1期 BP講座受講生

CIACとしても、この講座の意義と有用性を実感し、平成19年度には第2期の講座を開催した。平成20年度以降の第3期の計画についても検討を行っているところである。

## 2. 「街路灯(明かり)ビジネスによる街の活性化事業」の概要

今回の取り組みのベースとなる、ビジネスモデルの概要は次の通りである。



### (1) グループの構成メンバー

Bグループのメンバーは次の通りである。各社の商材や事業内容を基に企業連携で新しいビジネスモデルの構築について議論を行った。

#### ◇街路灯メーカー

オーダーメイドにより、街路灯などのデザインから施工まで行う。

#### ◇自動車メーカー

事業多角化、自動車以外の新規事業を検討する事業部。

#### ◇広告代理店

企業の広告、イベント、マーケティング戦略全般を提案する。

#### ◇シンクタンク

地域活性化・まちづくり等に関する調査研究を行う。

## (2) ビジネスモデルの概要

Bグループでは、次のような問題意識から、大きく分けて2つの「あかりビジネス」を検討した。

★「街路灯」をはじめとする明かりは、「まち」の象徴でもある。「まち」には様々な個性があるように、たのしい明かり、歴史や文化を語る明かり、季節やイベントごとの明かりがあると、「まち」が「あかるく」なるのではないかと。仮設照明でもまちなみにあわせた個性的な明かりができないか？

★お洒落なあかり、特にイルミネーションによって、冬の「まち」や人々の「こころ」も「あかるく」なり、人々がまちに集まるようになった。しかし多くの「イルミネーションイベント」は赤字…。 「ビジネス」としての仕組みを考えて、地域や産業の活性化に繋げたい。

1つは、固定型ではない「街路灯」の技術開発を行い、新しいマーケットに投入するモデル。もう1つは、それも含めた「あかり(イルミネーション)」を使って収入を得るモデルである。

### ① 固定型ではない「街路灯」の技術開発

移動できる街路灯、交換できる街路灯などを開発し、これまで固定式では難しい設置箇所や新しい使い方を検討した。

#### ①-1 開発する商材

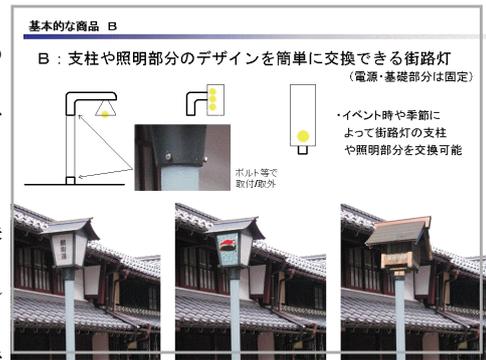
##### A: 移動できる街路灯

工事用の仮設照明灯のイメージ。ただし街並みに調和するデザイン性に優れたものとする。イベントやお祭りの際に設置したり、街路灯を設置する際の試験用などの用途を想定。



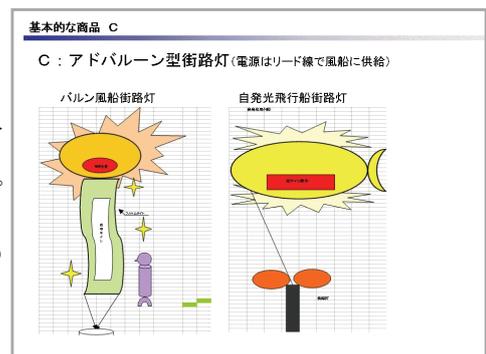
## B:照明部分を交換できる街路灯

基礎や電源などは固定式とするが、照明部分やポール部分をイベントや季節などにより交換できる街路灯。イベントにあわせたデザインに差し替えるとか、子供が描いた絵がデザインされた照明などに差し替えることができる。



## C:アドバルーン型街路灯

アドバルーンや風船などにLEDを組み込んで、空中を浮遊させるタイプの街路灯。イベント時の広告塔などの用途が考えられる。



### ①-2 機能について

#### A:防犯技術

犯罪抑止効果があるとされる「青色」の電球や、街路灯に「防犯カメラ」を組み込んだもの、端末をもった子供たちの位置確認機能をもつ街路灯などの検討。

#### B:環境技術

LED等の使用により省エネ、低発熱、動植物に優しいなど環境に配慮した街路灯やイルミネーションを検討。

#### C:まちづくり・公共性

街路灯はまちづくりの要素の1つであるが、新しい街路灯も、まちづくりやお祭りなど公共性の高い部分で使われることも想定して検討する。

#### D:オーダーメイド・デザイン募集

コンテストやデザイナーなどによるデザインや、写真や文字、素材、基本パーツの組み合わせなど、オーダーメイドに対応した街路灯を検討。

①-3 マーケットについて

A:いずれ常設型を設置する予定のところ

- ・常設型設計時の仮おきとして(デザイン・機能の検討)
- ・街中などの工事中の仮おきとして

B:常設型を設置することが難しいところ

- ・多目的広場などイベント開催時
- ・季節・期間型の場所

C:常設型では、逆にまちの景観を壊す場合

- ・イベント用照明
- ・コンテスト作品の展示

D:常設型が法律で設置できないところ

- ・河川敷や海岸など
- ・自然公園など
- ・伝統的建造物群保存地区、まちづくり条例など

②あかり(イルミネーション)を使って収入を得る方法

イルミネーションにより、冬の街に人が外出するようになったが、行政や企業の協賛に依存している場合が多い。ビジネスとしての仕組みを考える必要があるのではないか、という問題意識のもとで、「初詣」をヒントに、ビジネス、街の活性化、広告の方法、収益の方法を検討した。

<検討の例>

- ・寄付(協賛)を募る仕組み
- ・イルミネーションなどの権威付けの方法
- ・公益性をアピールし、公的機関との連携
- ・公共空間での企業広告の方法
- ・御利益・こりやく効能をPRする方法
- ・関連グッズの販売方法
- ・一般市民に参加していただく方法
- ・期限付き商品などリピーターを期待するための仕組み
- ・人混み・行列など・心理的な効果を期待する仕組み
- ・ストーリー・意味づけによる効果を期待する仕組み
- ・飲食店などへの展開・波及の仕組み

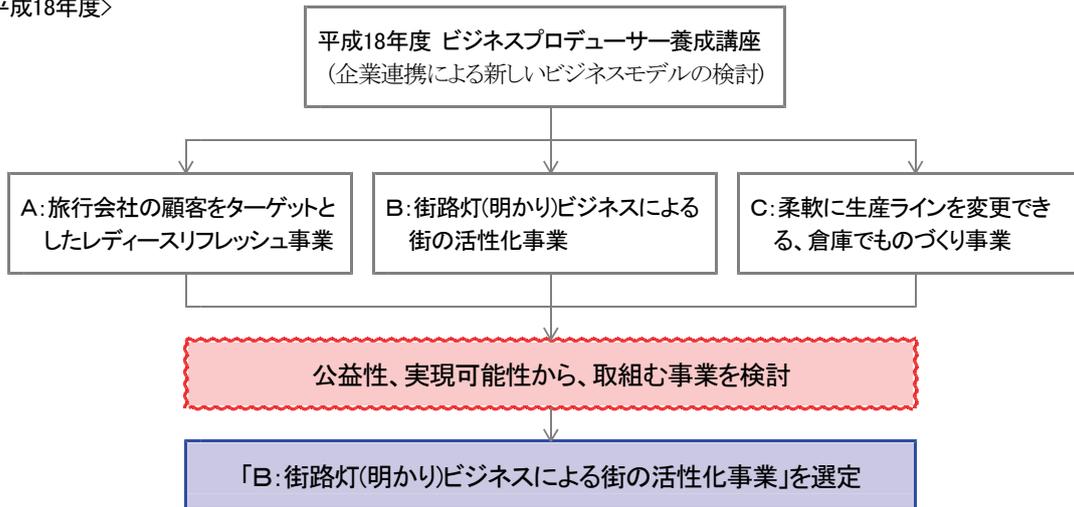
### 3. 検討の経過

---

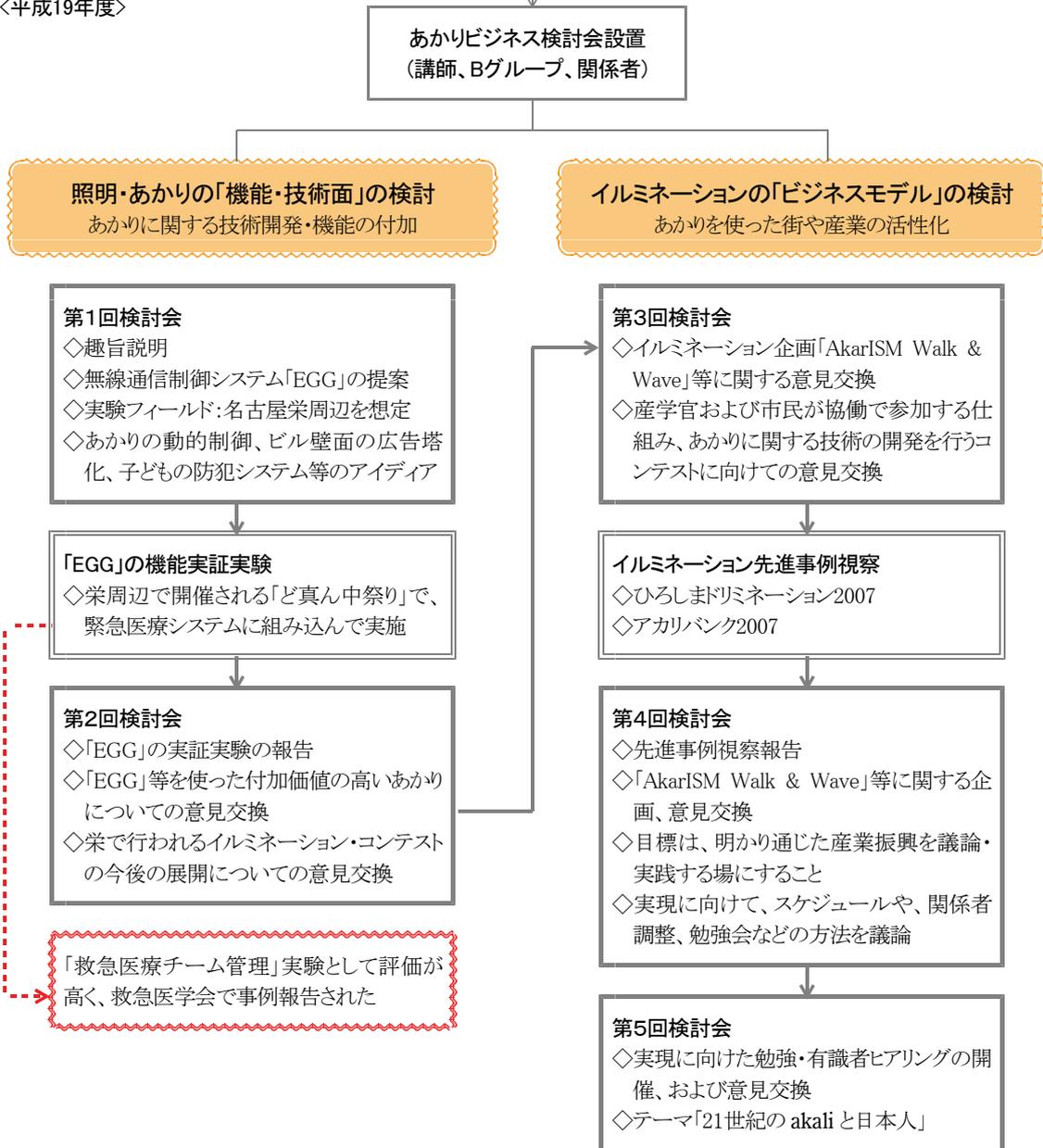
平成19年度は、BP講座内において検討された「街路灯(明かり)ビジネスによる街の活性化事業」のアイデアを基に、CIACを事務局として、BP講座の講師を務めたシステム・インテグレーション(株)の多喜義彦社長、議論を行ったBグループのメンバー、試行するフィールド等の関係者によって検討会を組織し、あかりの制御システムについての実証実験や、イルミネーションに関する先進事例調査を行い、実現に向けた検討を行った。

これまでの検討の経過は、次の通りである。

<平成18年度>



<平成19年度>



(平成20年度へ)

## 4. 検討会による議論の概要

検討会メンバーおよび、必要に応じてオブザーバー・講師の参加を頂いて、「あかりビジネスによる産業活性化」に関する議論を行った。

平成19年度の前半（第1回、第2回）では、「照明や明かりの機能・技術」に関するアイデアを中心に、後半（第3回、第4回）では、「明かりを使った街や産業の活性化」に関するアイデアを中心に議論を行った。

また、第5回では、M&Oデザイン事務所主宰の落合勉氏を講師にお招きし、勉強会を行った。



検討会の様子

### 第1回検討会 <平成19年5月10日(木)>

- ◇平成18年度に実施したBP講座 第1期の「街路灯(明かり)ビジネスによる街の活性化事業」について、実現の可能性など具体的な検討を行うことになった。
- ◇講師より、「BP講座の成果については、民間企業の新製品開発にいくつも結びついているが、CIACの取り組みは、官民が連携しており、また具体的なフィールドが用意されたまちづくりとの連携という意味で新しい取り組みになると期待している」ことが紹介された。
- ◇夏に開催される「日本ど真ん中祭り」や会場の久屋公園など、名古屋のまちづくり・活性化をイメージして検討したい。
- ◇「街路灯ビジネス」を具体化させるツールの1つとして「EGG」という近距離無線通信制御システムがあり、検討することが提案された。
- ◇「街路灯(明かり)」と「EGG」を組み合わせ、イベント時等の街路灯・照明灯の動的制御、低コストでできるビル壁面の広告塔化、路線バス電光掲示板計画、子どもの防犯システム等、あかりに関する技術開発・機能を付加するアイデアが検討された。

第2回検討会 <平成19年10月18日(木)>

◇EGG実証実験についての報告

- ・「EGG」の実証実験を、救急医療システムに組み込んで、ど真ん中祭りで実施した。
- ・「救急医療チーム管理」実験としては相当評価が高く、11月の救急医学会で報告される。
- ・課題の1つとなった設置方法については、広告や看板に組み込む方法が考えられる。ハード、ソフト的な課題はあるが、街路灯制御を含めて、ビジネスモデルとしての応用は十分可能。
- ・今後、スポーツや地域おこしイベントなどの応用や、子どもの危機管理システムなどへの応用が考えられる。

◇イルミネーションによる街や産業の活性化について

- ・名古屋観光ヒートアップ事業の付帯事業として、イルミネーション事業が行われる。このフィールドを利用して、実験や付加価値をつけることを検討したい。
- ・久屋大通公園は条例で広告が禁止されている。そのためスポンサーが付きにくい。何か新しいモデルが提案できないか。
- ・議論の結果、来年度以降の「イルミネーション・コンテスト」に向けて、研究を行うことになった。
- ・「きれい」「街の活性化」に加えて、「照明や提灯、電飾など、明かりに関する技術の向上を目的」に、企業、学校、一般などから参加者を募集する企画を検討してはどうか。

第3回検討会 <平成19年12月20日(木)>

◇「AkarISM Walk & Wave」等に関する企画説明

- ・イルミネーション・イベントに関する具体的な企画案「AkarISM Walk & Wave 2008」、およびEGGの実証実験で課題となった設置方法に関して「EGG端末

設置広告塔」の提案があった。これを基に、コンセプトや集客、企業の参加、都市公園の活用等についての議論を行った。

- ・これから立ち上げる大がかりなイルミネーションには、「環境」「公益性」「アート性」など、開催地や時期も含めて「意義」を考える必要がある。
- ・様々な地域、産学官から参加、協働の仕組みも必要。
- ・環境も含めて、あかりに関する技術の開発を行い、結果がサービス業や製造業に役立つというストーリーにしたい。

◇提案された企画を将来(最終)イメージと位置づけ、コンセプトの整理、スケジュール、事業主体、関係団体へのアプローチの方法などを引き続き検討する。

#### 第4回検討会 <平成20年2月5日(火)>

◇先進事例「ひろしまドリミネーション2007」等の視察報告

◇「AkarISM Walk & Wave」等に関する企画の議論

- ・企画コンセプトの「環境性」「公共性」「アート性」「国際性」の上に、もう1つ明確なコンセプト「明かり通じた産業振興を議論するという場」「ビジネスの可能性」というイメージが必要。
- ・省エネ、安全性、通信など光や明かりの技術開発をテーマとした「ビジネスショウ」にしてはどうか。

◇企画を具体化させるために、産学官から意見を伺うことが必要

- ・大学の先生(明かり・素材・システムなど工業系、都市工学、芸術、造形など)や、将来協賛を頂く企業の技術者やデザイナー、参加企業の紹介を前提に業界新聞からもご意見を伺いたい。
- ・出身・活動エリア・所属など、この地域に何らかの関係がある方が良い。

◇平成20年度の前半は、有識者ヒアリング、委員の拡充や企画書のリニューアル、後半は具体化に向けて準備を行いたい。

第5回検討会 <平成20年3月25日(火)>

◇「あかりビジネスによる産業活性化」実現に向けて、講師をお招きして勉強会の開催、および意見交換をおこなった。

◇「21世紀の akali と日本人」M&Oデザイン事務所主宰 落合勉氏

- ・日本のあかり文化は、「和蠟燭」「和紙」「竹文化」によるもので、19世紀の産業革命までは、日本はあかり文化のトップランナーだった。
- ・21世紀は「日本人の良さ」と「技術」で再びトップランナーになると考えているが、ヨーロッパ・アメリカのまねをしても評価されない。日本のアイデンティティを持ち、日本のあかり文化を理解したうえで、世界に発信しないと評価されない。
- ・照明といわれているのは、明視照明領域。光産業は、医療や農業、工業など多岐にわたる(15の光産業分類の一部に過ぎない)。
- ・21世紀の光源は「LED」や「有機EL」と考えられるが、単に光源が変わったのではなく、全く新しいデバイスが生まれたと認識する必要がある。
- ・LEDが普及するには、知識と技術と製造と流通の4点から検討する必要がある。いずれも従来の電球の延長ではなく、社会やビジネスを根本から変えてしまう要素を持っている。また7つのニーズ(社会、市場、業界、企業、個人、未知覚、エリア)を考える必要がある。

◇「AkarISM Walk & Wave」等に関する企画の議論

- ・現在の企画に不足している要素は「人材育成」を仕組みとして取り入れること。
- ・光産業が発展するためには、技術的な検討も重要だが、使い方や付加価値の付け方、つまりソフトの部分が大切。現在、それを話し合う場があまりない。
- ・「アカリズムフォーラム」があり、そのもとで、イベントを行ったり、研究会を行ったり、パテント・プール(知的財産の管理)を行ったりするのが良いと思う。

## 5. 無線通信制御システム「EGG」を使った実証実験の実施

第1回検討会において、街路灯同士の相互通信による明かりの制御や防犯機能を具体化させるツールとして、「EGG」という近距離無線通信制御システムが提案された。

この装置は、装置も小型で簡単に設置でき、近距離にある各端末同士が通信して、同期・連携することが可能であり、これまでコスト面、通信法等の規制でネックとなっていた各端末や照明の連携・制御が可能になると期待される。

具体的な使用法としては、久屋大通公園のランドマークである名古屋テレビ塔の高所からイベント時等の街路灯・照明灯の動的制御、低コストでできるビル壁面の広告塔化、路線バス電光掲示板計画、子どもの防犯システム等のアイデアが検討会において検討された。

EGGの性能を屋外でその効果を実証実験するため、「第9回につぼんど真ん中祭り」大会をフィールドに選び、財団法人につぼんど真ん中祭り文化財団、特定非営利活動法人愛知万博記念災害・救急医療研究会のご協力のもと、期間中(8月24日、25日、26日)の3会場(久屋広場、エンゼル広場、光の広場)で行った。

具体的には、会場に固定配置された通信端末と、会場に待機している医師、救急救命士、看護師、約30名に所持させ、IDをもった通信端末を相互に通信させることで、各救助隊員の移動履歴を本部で確実に把握し、要救助者に最も近いと思われる救助隊員に連絡、直ちに救助に向かわせることができるか、というものである。

その結果、この「救助システム」により、検討会で検討された「明かり・照明の動的制御」だけではなく、イルミネーション・イベント開催時などの「スタッフ管理」への応用も期待される。

詳細は、資料2、3のとおり。



会場内にEGG端末を設置

## 6. イルミネーション先進事例視察

名古屋・テレビ塔付近で、あかりをテーマにした事業を企画するにあたり、イルミネーションを活用した賑わいづくりの先進事例視察を行った。

運輸・旅行会社が編集した雑誌の特集「光のアートさんぽ」に記載のあった事例の中から、開催テーマや開催時期、都市の中心を貫く「大通公園」を中心としたイルミネーションであること、委員メンバーが視察したことがない取り組み等を考慮した結果、広島市内で開催される「ひろしまドリミネーション2007」、および共催の「アカリバンク2007」の視察を行うこととなった。詳細は、資料4のとおり。(視察日:平成19年12月23日(日))

### (1) ひろしまドリミネーション2007について

- ・広島を平和大通りを中心に中心部商店街や商業施設などの市内中心部一帯で展開することにより、市民や観光客が広島の夜の街を散策して楽しめる魅力ある観光スポットを創出する。
- ・平和大通りやアリスガーデンなどで、「おとぎの国」をコンセプトに、約120万球の色とりどりの光でライトアップを展開。異なるテーマをもつ23のエリアごとにメルヘンの世界が展開されている。



### (2) AKARI BANKについて

- ・室内のあかりの楽しさを提案する「AKARI BANK」は、広島の冬の街を彩る「ひろしまドリミネーション」と同時開催され、「AKARI BANK」は弟分的な位置づけになっている。
- ・ウインターイルミネーションの美しい季節に、もっといろいろなあかりを楽しむための、あかりのイベント。会場は、旧日本銀行広島支店。長い年月を耐えてきた昭和の頑丈な建物の中に個性豊かで楽しいあかりが集まる。





## 第2章 あかりビジネスによる 産業活性化事業案

本章では、「街路灯(明かり)ビジネスで街の活性化事業」を基にして  
本年度検討した産業活性化事業案について報告します。

## 第2章 あかりビジネスによる産業活性化事業案

本章では、あかりビジネスによる産業活性化事業について、第3回、第4回検討会で議論された「AkarISM Walk & Wave(仮)」の企画案の内容を概括するとともに、その具体化に向けた検討課題についてとりまとめた。

### 1. あかりビジネスによる産業活性化事業案

#### (1) 基本的な考え方

ものづくりが盛んな中部・名古屋の中心「栄周辺」をステージに、世界で初めての「**明かりのビジネスショー**」である「AkarISM Walk&Wave(仮)」を開催することにより、明かり(光全般)に関する技術の発展と人材育成、明かりを通じた産業振興、明かりを通じたまちづくりに寄与することを目的とする。

産学官から「明かり(光全般)」に関する技術やアイデア、デザインを募り、新しい「技術」、「ビジネス」、「デザイン」、「まちづくり」などの出会いの場として、新たなビジネスモデルを創出していただく場となることを期待する。

## (2) 「AkarISM Walk & Wave」について

「AkarISM Walk & Wave」は、本調査で検討した「あかりビジネスによる産業活性化事業」の核となる企画で、「街の景観を良くすること」、そして「話題性のある景観・施設などを提供し、観光客の誘引を図る」ことにより、地域を活性化させることを目的とするものである。

### ①観光客誘引のための3つの施策

次の「街の景観づくり」「イベント・お祭り」「地域産業のPR」の3つの施策を複合的に実施することで、中部を活性化していくことを目指す。最終目標とするのは、中部で日本を代表する観光資源を創出し、世界に認知させることを目指す。

#### ■街の景観づくり

- ・通りを歩くだけで楽しめる街の景観づくりは、長期的な地域の活性化につながります。
- ・京都のきめ細かな街づくりを目標に、名古屋ならではの個性を発揮できる景観づくりを長期的に取り組んでいきます。

#### ■イベント・お祭り

- ・イベント・お祭りは観光客を呼び込みやすく、街の良さを知ってもらうためのきっかけです。
- ・北海道の札幌雪祭りのような、全国・海外において知名度の高いイベントを目標とします。

#### ■地域産業のPR

- ・地域が誇る産業を一般生活者、ビジネスパーソンへPRすることで地元企業をはじめとするビジネスチャンスの拡大と、市場活性化を図ります。

## ②方向性の確認

中部の伝統産業である「あかり」と、世界の時流・潮流である「エコ」をふまえた上で、あたらしい観光資源を目指す。

電飾を多用したイルミイベントとは一線を画し、地球にやさしい運営方法で、来場者に「あかり」本来の美しさと、「あかり」の大切さを感じさせるイベントとして展開する。

電飾を大量に使用する従来のイルミイベントは、派手さはあるが、時代に即しているとは言えない。息の長いイベントとするためにも[あかりを大切に使うこと]をイベント全体のメッセージとして投げかけていき、他地域のイルミイベントと差別化する。

### ■中部の伝統文化産業「あかり」

- ・中部には、和紙、和ろうそくやちょうちん、花火など、歴史あるあかり産業や文化が多くあります。
- ・中部が産んだあかりは、暮らしに必要なあかりを長く利用し美しさを保つ伝統産業であり、中部が世界へとアピールすべき伝統の知恵といえます。

### ■世界の潮流「エコ」

- ・エコは世界共通で注目度が高いテーマ。日本はもちろん、世界からの注目も集めやすいテーマといえます。
- ・昨年のイルミイベントもエコを意識したものが目立ちました。娯楽イベントにおいてもいかにエコか、が問われる時代です。



### 中部のあかり産業

写真提供:「岐阜提灯」岐阜市／「三嶋和ろうそく店」飛騨市／「岡崎観光夏まつり花火大会」岡崎市

### ③「AkarISM Walk&Wave」企画概要(案)

全国でクリスマス・イルミネーション・イベントが開催される時期に、テレビ塔周辺で開催する。中長期的に計画を立て、年度ごとに規模を拡大しながら、認知・拡大・定着を狙う。

#### ■タイトル「AkarISM Walk&Wave (仮)」

- ・太陽や月など自然界の光ではなく、人の手によって生み出された光を「あかり」と位置づけ、あかりと、中部地域・中部人の「ISM(主義・主張)」をアピールするイベントである意味を込め、「AKARISM(アカリズム)」という造語をタイトルに使用します。
- ・イベント会場が久屋大通公園のため、歩く楽しさ「Walk」と、最新の「あかり」がある見本市としてのイベントに成長する想いを込め、新しい「あかり」の波＝「Wave」で表現しています。

#### ■期間

11月下旬から12月下旬まで 約1ヶ月間 (初年は2週間程度)

#### ■会場

テレビ塔を中心とした久屋大通公園周辺エリア

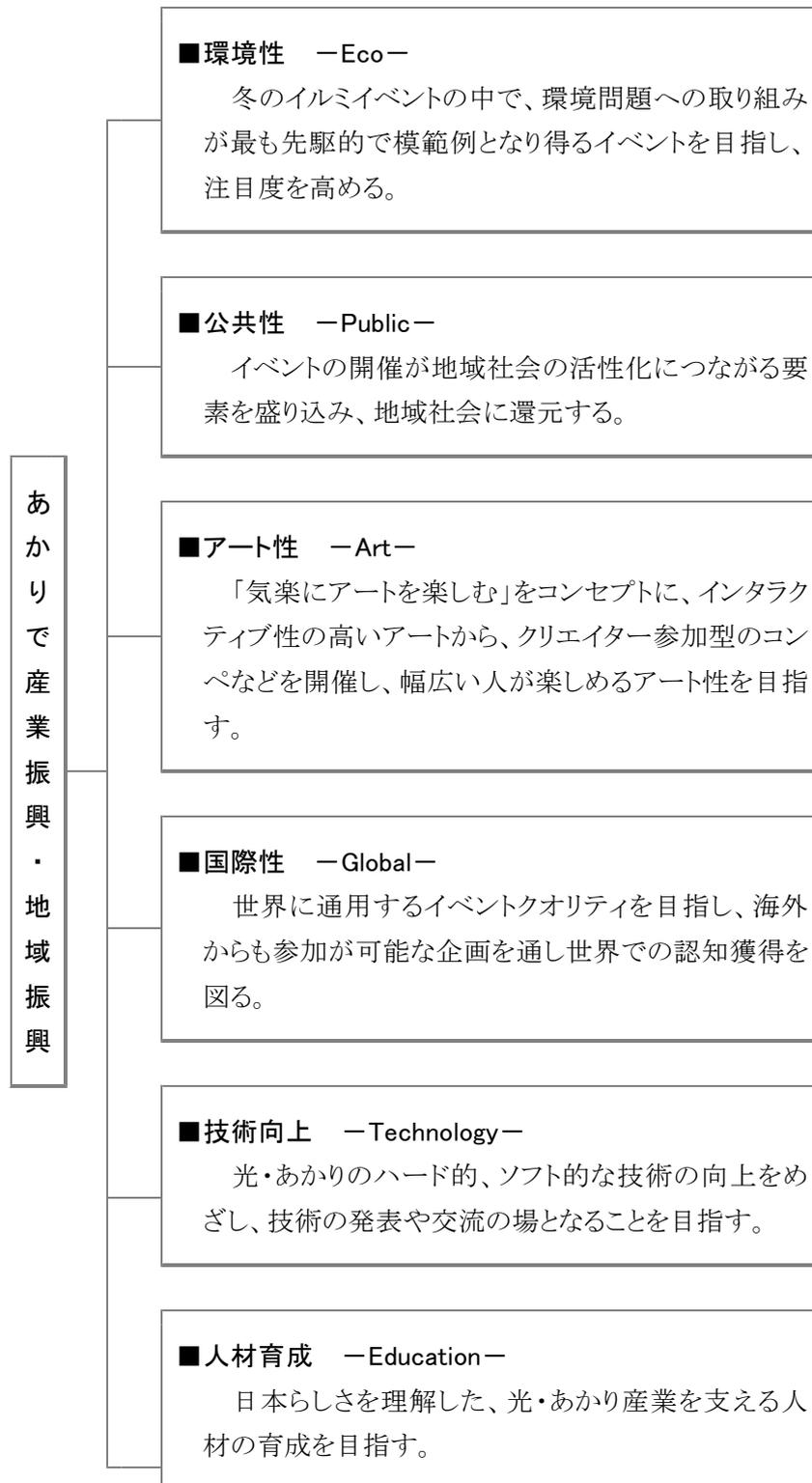
※3年目以降は、「久屋大通公園周辺エリア」を本会場とし、中部を中心とする地方のサテライト会場まで広げる。サテライト会場で異なるテーマの分科会を開催したり、出展の予選会を開催するというアイデアが議論されました。

#### ■主催

イベント実行委員会

#### ④基本コンセプト

「あかりで産業振興・地域振興」のもと、次の方針をイベントに反映させ、あかり産業振興の促進を図り、幅広い世代、幅広い嗜好の人が参加できるイベントを目指す。



⑤コンセプト展開案 — 取組み案 —

⑤-1 環境性

冬のイルミネーションの中で、環境問題への取り組みが最も先駆的で模範例となり得るイベントを目指し、注目度を高める。

■ 電力は自然エネルギーを極力使用し、光源はLEDを採用することでCO2発生量を抑える

- ・イベントで使用する電力は、風力発電・太陽光発電のエネルギーを使用し、自家発電型の演出を検討(オアシス21の利用など)
- ・会場演出のライティングは可能な範囲でLED(省エネルギー・長寿命)を採用する
- ・全体的にライティングの照度を落とし、過剰な電力使用を避ける

■ イベントで発生するモノは、非木材紙、生分解プラなど地球にやさしい素材を使用し、ゴミ発生量を抑える

- ・会場サインや告知物(チラシ類)などは、非木材紙やリサイクル・リユース可能な素材を利用する
- ・容器・包装類は土に還る生分解性プラスチックなど燃やしても有害ガスが出ない素材を採用する

⑤-2 公共性

イベントの開催が地域社会の活性化につながる要素を盛り込み、地域社会に還元する。

■ イベント用に制作したあかり(街灯など)やソーラーパネルなどを地域へ恒久的に提供する

- ・イベントによる一時的な活性化ではなく、地域社会に必要とされ恒久的に活用できるものを創り上げる考え方
- ・街路灯など地域へあかり(および電力)を恒久的に供給

■ NPO・市民団体の参加を募り、地域市民で創り上げるイベントを目指す

- ・NPO・市民団体の人的出資をつのり、イベント運営サポートと活動を紹介するコーナーなどを設ける

### ⑤-3 アート性

「気楽にアートを楽しむ」をコンセプトに、インタラクティブ性の高いアートから、クリエイター参加型のコンペなどを開催し、幅広い人が楽しめるアート性を目指す。

**■若手からプロまで幅広いクリエイターが参加できるコンペティションを実施**

- ・クリエイターを育成し交流する場を目指し、プロからアマチュア、学生まで幅広く参加できるコンペを実施

**■著名なアーティストの作品や、著名照明家による会場の総合演出など、クオリティの高いアートを提供**

- ・照明家によるトータルな演出により、会場を歩くだけでアートを楽しめる「開かれたアート」を展開
- ・著名なアーティストの作品展示により、全国および海外からの注目度を高める

### ⑤-4 国際性

世界に通用するイベントクオリティを目指し、海外からも参加が可能な企画を通し世界での認知獲得を図る。

**■世界へコンテスト参加を募集し、国際性ゆたかなコンテストを実施**

- ・主要企画であるコンテストは世界中から作品を募集し、コンテストのクオリティUPと世界からの観光客増をねらう

**■ネットを活用し、海外から気軽にイベントへの参加が可能な企画を展開**

- ・インターネット上からイベントに参加できるしきみを構築し、より多くの海外参加を図る

### ⑤-5 技術向上

光・あかりのハード的、ソフト的な技術の向上をめざし、技術の発表や交流の場となることを目指す。

#### ■光やあかり産業に関する新技術、新製品の見本市を実施

- ・新しい光源やそれを支える周辺機材の見本市、異業種への応用、異業種からの参入など、技術や製品の発表の場を提供。ビジネスショウを開催する。

#### ■光技術について議論する場を提供

- ・伝統的な「あかり文化」を研究し、日本のあかり文化などを見直すための議論の場を提供する。
- ・光の技術や規格など、基礎技術の議論を行う場を提供する。
- ・光を使ったビジネスモデル、アート、付加価値の方法など、光技術の応用について議論を行う場を提供する。

### ⑤-6 人材育成

日本らしさを理解した、光・あかり産業を支える人材の育成を目指す。

#### ■工作体験やあかりクイズなどを実施

- ・光に関する工作体験教室やあかりに関するクイズラリーなど、子どもたちに光に興味を持っていただくための事業を行い、未来の人材育成を図る。

#### ■光技術コンテストの開催

- ・学生や企業を対象に、「技能五輪」や「ロボットコンテスト」のような、光技術向上に資するテーマのコンテストを開催し、技術者の育成を図る。

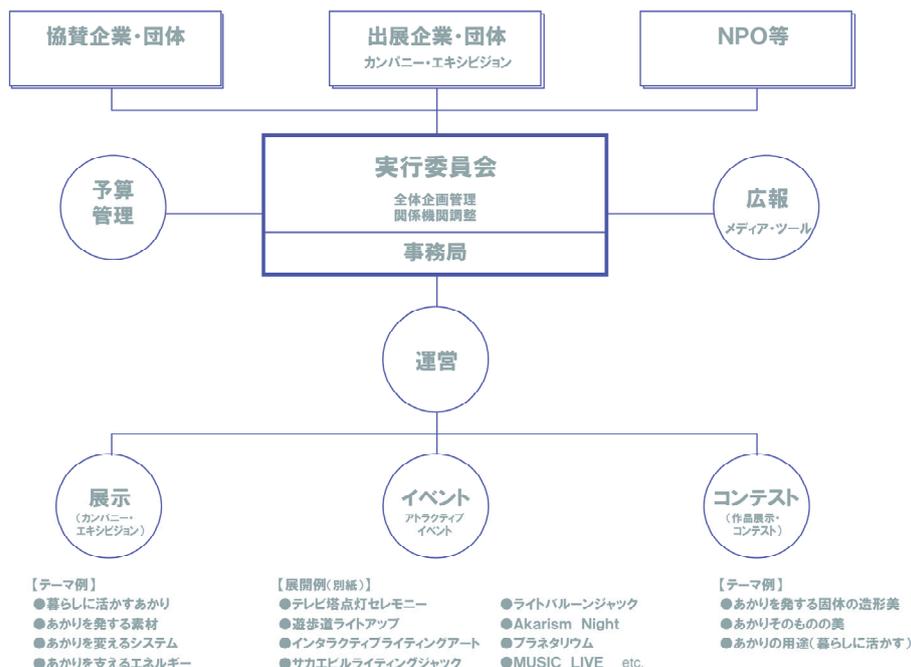
#### ■光技術に関する講演・講座の開催

- ・アーティストや研究者、および企業の技術者・コンサルタントなどを講師として、学校等に派遣して、「光芸術講座」「光技術講座」「光ビジネス講座」など文系理系両方の人材育成を図る。

### ⑥実行母体組織構想について

「実行委員会」方式とする。「実行委員会」は、現在の「検討会」参加メンバーやご意見を頂いたオブザーバーを核とし、行政やマスコミ、関連業界団体、大学等の有識者に参加を要請する。

また、協賛として、中部を中心とした電力・ガスなどのエネルギー企業、銀行、製造業、運輸、百貨店などの企業に要請する。



### ⑦人・物・資金調達の方法について

次のような主体から調達を想定する。

検討会では、「AkarISM Walk&Wave」の企画を、技術開発や新商品PR、テストマーケティングなど「ビジネスショウ」的な要素を強調し、この企画をビジネスチャンスと捉えた企業や団体から「参加費」を集めることが出来るようなテーマ・内容にすべきという意見があった。

「主催・参加企業・団体」からの資金・ひと・ネットワーク等の提供

「協賛企業」からの協賛金

「出展企業」からの参加費等

「NPO等」からの運営スタッフの提供

### (3) 開催事業と開催時期（年度計画）

愛知万博から2年が経ち、今でも元気な名古屋として注目を集めている。この時期に「あかり」に関する事業を実施・恒例化し、永続的な中部圏の活性化を図ることが必要といえる。

中部地域は、あかりに関する伝統産業や、光・電飾に関わる企業も多く、その企業の技術・開発スタッフの開発意欲を喚起するようなイベントは地域産業の活性化にもつながると考えられる。

一方、今回提案する事業のメイン会場予定地である久屋大通公園は、サカエ繁華街のど真ん中にありながら、木々が森のように生い茂り、おしゃれなお店が軒を連ね、名古屋の街の中でも景観に優れた、歩いていて楽しい空間であるといえる。

そこで、その大きく成長した木々をスクリーンに見立て、そこに映し出されるライティングや映像は、テレビ塔をはじめ、ビルやデパートの屋上などから見ても幻想的な光アートを演出できると考えられる。

あかりの伝統産業を大切にしながら、新しいあかり産業を当地域の目玉として全国に発信し、「あかりの中部」をイメージづけていけるキックオフとなる事業を提案する。

**■見たことがない・体験したことがない・あっと驚くような、新しく、美しいライティングがある**

「あかり」の見本市として全国から注目を集めるビジネスショーを目指し、最新技術から、芸術性の高いものまで、業界関係者はもちろん、一般からも注目を集める内容を目指す。

**■来場者が気軽に参加できるオープンな雰囲気があり、来場者ひとりひとりが一緒に創り上げていく企画性がある**

カップルや家族連れ、20代の若者から60代の高齢層まで幅広い世代が楽しめるイベントを目指し、来場者がイベント演出の一員となり、愛着を持っていただけるような企画を盛り込む。

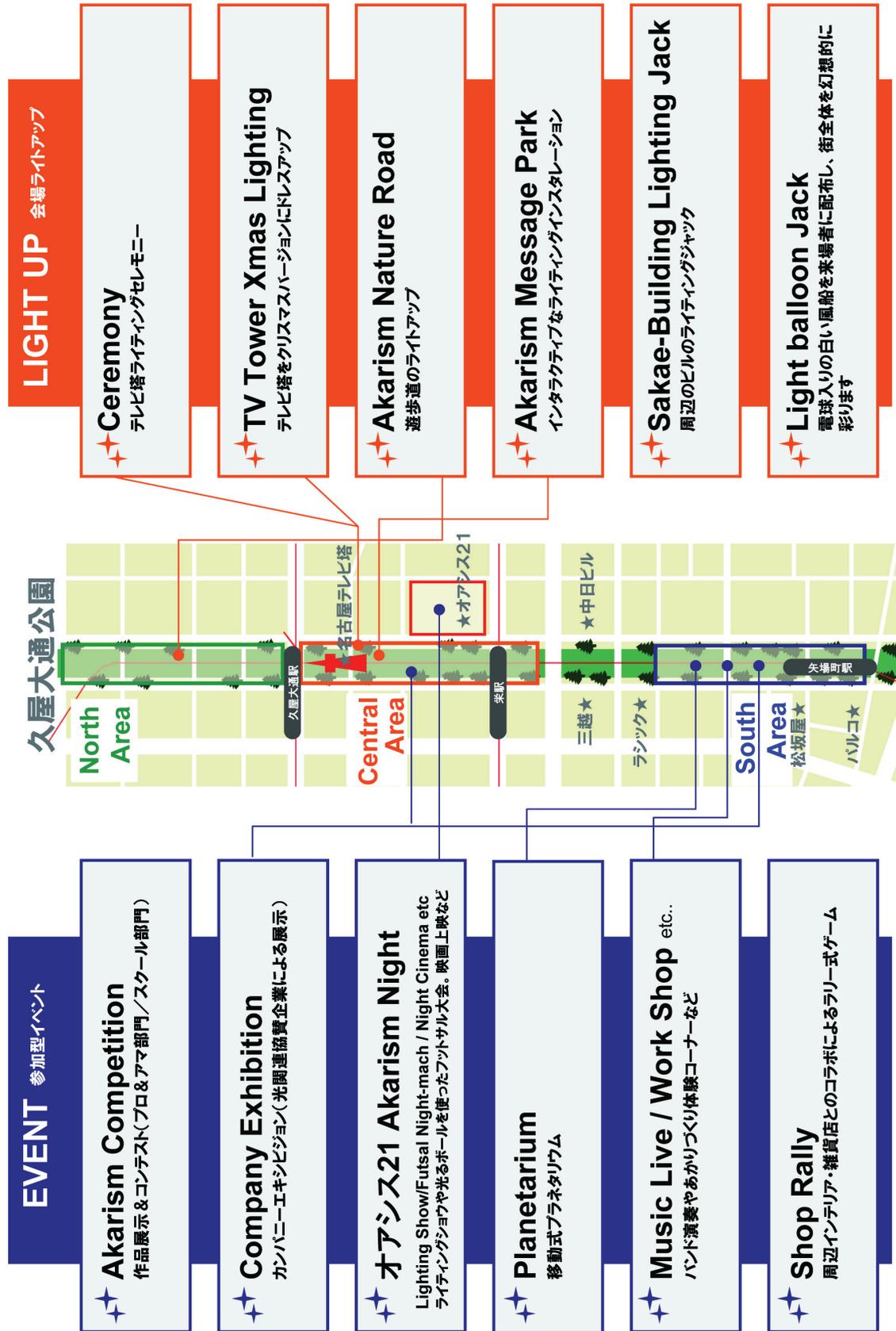
**■サカエを中心とした地域の活性化と、中部全体の活性化につながる全国規模の事業を目指す**

おしゃれな街「サカエらしさ」を感じながらも、サカエを中心に中部全体の活性化へと広がり、全国から中部へ来場者が集まる事業・イベントを目指す。

<3年間の事業計画案>

	1年目:「基盤固め」	2年目:「発展」	3年目:「完成」		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●クリーンエネルギーでの運営に対するトライアルを行う。</li> <li>●あかりのコンテスト企画とライティング演出をメイン実施。今後の基礎となる2つを確実に展開できることを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●運営方法をさらにエコロジーにするための新しい取り組みを付加。</li> <li>●コンテストとライトアップに加え、新企画を追加し、催しものを充実。</li> <li>●一般市民参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●久屋大通公園全域に加え、地方会場を設けて大々的に展開。</li> </ul>		
期間	2週間	1ヶ月程度	1ヶ月程度		
会場	テレビ塔周辺	久屋大通公園全域 オアシス21	久屋大通公園全域 オアシス21 地方会場(中部)		
運営方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●クリーンエネルギー使用</li> <li>●告知物、容器・包装類などは環境低負荷素材を採用</li> </ul>	+	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ソーラーパネルで自家発電し、イベント後は地域の電力として活用</li> </ul>	+	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ソーラーパネルで自家発電し、イベント後は地域の電力として活用</li> </ul>
演出内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●会場全体のライトアップ</li> <li>●ライティングインスタレーション</li> </ul>	+	<ul style="list-style-type: none"> <li>●テレビ塔ライトアップ</li> <li>●栄ビル壁面へのライティングジャック</li> </ul>	+	<ul style="list-style-type: none"> <li>●テレビ塔ライティングセレモニー</li> <li>●地方会場のライトアップ</li> </ul>
企画内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●あかりのコンテスト</li> <li>●豆球入りふうせん配布</li> <li>●企業協賛ブース</li> <li>●体験コーナー・ワークショップ</li> </ul>	+	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オアシス21でのトークショー、ライブ演奏など</li> <li>●NPO活動紹介</li> <li>●ショップラリー</li> </ul>	+	<ul style="list-style-type: none"> <li>●テレビ塔ライティングセレモニー</li> </ul>

なお、具体的な企画・イベントの内容については、今後様々な関係者からの意見をもとに、計画していく予定である。



## 2. 実現に向けた課題等

検討会において、企画案や事例視察報告などを基に、実現に向けた議論を行った。以下に、検討会メンバー等から寄せられた課題や意見等を示す。

次年度以降、「アカリズムフォーラムを設立し、そのもとで、イベントを行ったり、研究会を開催したり、パテント・プール(知的財産の管理)を行ってはどうか」という意見を基に、具体的な議論を進めていく。

### ■全体コンセプトの明確化について

- ・企画コンセプトの「環境性」「公共性」「アート性」「国際性」の上に、もう1つ明確なコンセプトが必要ではないか。
- ・世界で初めて、「明かり通じた産業振興を議論するという場」を提供すること。「お金になる臭いがする」「ビジネスになる」というイメージが必要だと思う。その企画で、出展企業から参加費を受け取れば良いと思う。

### ■明かりの「ビジネスショー」にしてはどうか

- ・幕張で行われる展示会を、栄で開催するイメージ。明かりを通じて「環境をよくする」とか、「公共性」「まちなみ」…、そういうことができる企業、提供したい企業、ビジネスチャンスだと考える企業に、定めたレギュレーションのもとに出展していただき、自社商品をPRしていただく場としてはどうか。
- ・「明かりのことなら何でもわかる」ビジネスショーにすると世界中から企業やアーティスト達が集まってくると思う。
- ・コンセプトや企業が参加するメリットが明確だと、企業も大きな予算を組み易いのではないか。
- ・たとえば「ゲームショー」や「モーターショー」は、今では一般の方が大勢集まるが、元々は企業の技術や新製品の発表の場だった。まずはプロがきて、一般客がくる。

■「アカリズムフォーラム」を設立してはどうか

- ・光技術や応用などについて議論する場「アカリズムフォーラム」を設立し、そのもとで、イベントを行ったり、研究会を行ったり、パテント・プールを行ったりするのが良いと思う。

■人材育成に関する内容を入れるべきではないか

- ・「あかり」に関する伝統や文化、日本人の感性を学ぶような内容を加えてはどうか。また、現在の明かり産業などを学ぶ体験などを加えてはどうか。
- ・若者達が、光の「ものづくり」に参加できる仕組み、人材育成に関する仕組みが必要ではないか。

■日本人のアイデンティティが必要

- ・19世紀の産業革命までは、日本はあかり文化のトップランナーだった。21世紀は「日本人の良さ」と「技術」で再びトップランナーになると考えているが、ヨーロッパ・アメリカのまねをしても評価されない。
- ・日本のアイデンティティを持ち、日本のあかり文化を理解したうえで、世界に発信しないと評価されない。

■明かりの技術開発テーマについて

- ・防犯、カーボンオフセット、光発電、バッテリー、光通信などのテーマが考えられる。これらのデモンストレーションや技術開発をテーマしてはどうか。
- ・たとえば商店街の照明のランプを青にするだけで、「犯罪が減る」という効果がある。

- ・ハイブリッドカーの電池が改良されてきた。「バッテリー」や「太陽電池」などもテーマの1つだと考えられる。
- ・LEDなど効率が良くなっているが、熱に変わることがもったいない。さらなる技術革新が期待される。
- ・「光通信」もテーマの1つ。コスト的な課題があるが、無線局の免許がいない、電波の混信が起これない、など期待されている。

#### ■企業からの協賛について

- ・企業に関しては、全体の主旨に「協賛」と「出展」の両方がある。
- ・「協賛金」を集めるというよりも「参加費」をお支払いいただく。フィールドを用意すると企業が集まってくると思う。
- ・あからさまなスポンサー名表記は、企業が嫌がる可能性もある。スポンサーの銘板は、目立たないところに表記するのがお洒落ではないか。

#### ■都市公園の活用について

- ・最近では都市公園が利用されなくなっている。多くの都市公園は、少ない予算で苦勞されていると聞いている。アイデアを出すので、規制緩和をお願いしたい。
- ・若い方は、休日に大型ショッピングセンターに行って、物を買わずに時間を消費される。本来は公園の役割。公園の活性化を行う必要がある。
- ・公園管理ではなく、公園経営という概念が必要。資源を利用して収益をあげる。市民にとっても良い話だと思う。ただし目的を明確にし、理論構築は必要。

■公共空間の利用について(技術・規制面)

- ・公共・屋外空間で「ビジネスショー」ができるのか。技術面、規制面から検討する必要がある。たとえば、オアシス21が使えるのか。
- ・国の支援を得ることができれば、名古屋市のご理解も期待できるのではないかと。
- ・その際、前例と意義などの「理論構築」があると説明しやすい。

■名古屋市に協力を要請する際の窓口について

- ・名古屋市も愛知県も遊休資産の活用、ネーミングライトということも考えていると思う。全体的にはそういう雰囲気がある。
- ・「産業振興」を強調して、当面の窓口を「市民経済局」として関係部署に投げかけていただくのはどうか。
- ・準備や運営は我々が行うので、レギュレーションをつくる委員会に参加して頂き、許認可に関するご指導をいただきたい。

■支援を打診する国の機関について

- ・経済産業省に支援を打診してはどうか。たとえば業界団体と連携して照明の効率をあげてCO2を削減ということを研究している。
- ・産業振興であれば「経済産業省」、通信なら「総務省」、観光なら「国土交通省」、照明を使った農業漁業など「農林水産省」も考えられる。教育や芸術なら「文部科学省」、環境に優しい照明なら「環境省」も考えられる。
- ・光技術に関するパテント・プールであれば、特許庁も考えられる。

■有識者等からのアドバイス・委員拡充について

- ・企画を具体化させるために、いろいろな方にご意見を伺いたい。  
大学の先生(明かり・素材・システムなど工業系、都市工学、芸術、造形など)や、将来協賛を頂く企業の技術者やデザイナーなどに参加していただきたい。
- ・できれば、出身・活動エリア・所属など、この地域に何らかの関係がある方が良い。
- ・メディアも重要。一般向けのメディアも大切だが、業界新聞など、協賛企業になるメーカーを知っているメディアも重要。